



彦根

特定非営利活動法人
五環生活

環境に優しく、健康的な自転車が地域を変える サイクル・ツーリズムの定着で彦根地域の観光を活性化

世界最初の自転車は、享保17（1732）年、彦根藩士、平石久平次時光が発明した「陸舟奔車^{りくふそうま}」であるという説がある。陸舟奔車は2007年、「国宝・彦根城築城400年祭」に復元されたが、その前年、彦根市では自転車を取り入れたライフスタイルを提案・実践する特定非営利活動法人五環生活が設立された。世界最初の自転車相当の乗り物を生み出した彦根市から、滋賀県の自転車文化に大きな影響を与えている。

エコで身体に良い自転車を 暮らし・まちづくり・観光に

自転車ブームといわれて久しい。地球環境に優しく、健康増進にも役立つ自転車を通勤や買い物の足だけでなく、スポーツ、レジャー、観光など、さまざまなシーンで楽しむ人が増えている。このブームをとらえて、自転車を地域活性化の起爆剤にしようとする動きが、滋賀県でも活発だ。なかでも、暮らし・まちづくり、観光振興に自転車を加えた取り組みを提言・実践し、県内の自転車文化をリードする存在となっているのが、彦根市のNPO法人五環生活だ。

五環生活は、「自転車文化の普及を通して環境にやさしいまちづくりに貢献すること」を目的として活動する「ひこね自転車生活をすすめる会」の関係者や、滋賀県立大学の教員・学生などを中心に、2006年に設立された。NPO設立の主な目的は、ペロタクシーの運行だった。

新しい車体を独自に開発 「ひこねリキシャ」で城下を巡る

ペロタクシーはドイツで開発された、後部座席に乘客を乗せて走ることができ、自転車タクシー。「目を引くフォルムの車体にラッピング広告を施すことができ、新しい事業の可能性が感じられた。

このクリーンな交通システムを、ぜひ滋賀県にも走らせたいと考えたと説明するのは、近藤紀章代表理事。

五環生活ではペロタクシー3台を導入し、「国宝・彦根城築城400年祭」の開催に併せて、07年3月から営業を開始した。翌年には地元伝統工芸、彦根仏壇の技術を用いたオリジナル車体の「ひこねリキシャ」を新たに開発した。

現在は、ひこねリキシャに加え、彦根ゆかりの「井伊の赤備え」をイメージした「戦国リキシャ」を新たに製作し、これらオリジナ



休日になると「ビワイチ」を楽しむ自転車の隊列が増える

イチ」の愛称で親しまれ、自転車愛好家にとっては、今や一度は走りたいロングライドコースの一つになっている。

「この2、3年で、休日に自転車の隊列を組んで湖岸を走る人が、びつくりするほど増えた。ビワイチのコースは平坦で走りやすく、初心者でも楽しめる。湖、山、田園風景や史跡などコース沿いの見所が多いのも魅力。以前は県内の若い男性が多かったが、今は男女半々、中高年が増え、親子で走る人も多い。距離が長いので2泊3日ぐらいが良いが、一番多いのは、1泊2日」と、近藤代表理事は、ビワイチの現況を説明する。

五環生活では設立当初から、ビワイチに着目していた。自転車の楽しさ、滋賀県の魅力をアピールする格好の材料だから、瀬戸内の『しまなみ街道』のように盛り上げたいと思っていた。しかし、当時は県もビワイチ関連の情報をほとんど発信していなかった。完走には何時間かかるのか？といった基本的な疑問にも、公式に答えるホームページもない状態だった。そこで、まず受け入れ体制を整えるために「輪の国びわ湖推進協議会」の立ち上げを支援した。同協議会の中で、ホームページの開設やPR活動を開始し、琵琶湖一周を達成した人に認定書を発行するシステムも開発した」と振り返る。

米原にビワイチ拠点をつくる 彦根から自転車生活を発信

昨年9、11月の休日、JR米原駅にレンタサイクルの特設ステーションが設置された。これは、ビワイチのサービス拠点づくりを目指して、滋賀県と米原市と五環生活が中心に行った社会実験だった。「この実験の成果を踏まえ、今年には正式に米原にサイクルステーションを開設する。米原は県内唯一の新幹線停車駅であり、JR東海道本線、北陸本線が乗り入れる交通の要衝。外国人を含め遠方から来られた方にとって玄関口となる米原から、すぐに自転車に乗って、ビワイチや彦根、長浜などに行けるスタート拠点だ



カフェを併設したレンタサイクルショップと五環生活の事務所

必要と考えた」と魅力を高める次の一手を探る。

「彦根には江戸時代からの古い屋敷の残る芹橋^{せりはし}という地区があるが、道が細く、自動車は入っていけない。例えば、このような場所には、自転車という移動手段が、まちの保存と暮らし方に対する提案になるだろう。彦根とその周辺をベースに、暮らしに自転車をプラスする試みを実践し、将来、海外からも参考とされるモデルを築きたい。彦根市の人口は約11万人。この規模の都市は、国内で魅力に乏しいとみなされがちだが、世界では面白い都市がいっぱいある。その一つに彦根が加わる過程に、私たちが関わっていけるならうれしい」と近藤代表理事は思いを描く。



平坦な道と風光明媚な景色が「ビワイチ」の人気の秘密